

社会福祉法人永山会

令和2年度事業計画

平成29年度の法改正の目的である経営組織のガバナンスの強化、事業運営の透明性の向上、財務規律の強化に取り組んできた成果を今後も実施、継続していく。

令和2年度は、働き方改革を推進するための関係法律「同一労働同一賃金」や、それに伴う改正派遣法が施行され、ますます職員確保が難しくなることが考えられる。今後は外国人労働者雇用や正規職員を獲得するための投資など、柔軟な雇用対策が求められる。それと並行して、キャリアパスに基づいた資格取得、研修会への参加、役職者への登用、資格手当の見直し等、魅力ある職場環境を構築し職員の定着率を高める。

財政面ではそせい苑デイサービス、まどかⅡ番館デイサービスの収益面の改善を図る。

施設整備では、そせい苑、しがそせい苑、まどかの経年劣化に伴う設備を改修する。利用者の処遇については、法令を遵守し法人の基本理念である『明るく、楽しく、美しく』に基づき、利用者一人ひとりの尊厳ある生活を守り、自律した生活支援に努め、日常生活を満足して暮らしていただける施設運営を目指す。

2. 長期目標（5か年）

1. 社会福祉法の改正に基づきガバナンスの強化及び透明性の確保に努める。
2. 利用者の自己実現の達成を目指す。
3. 職員の適正やキャリアに沿った教育体制を構築し人材の育成を図る。
4. 法令を遵守し安定した施設経営を心掛け、各サービス事業所が無駄をなくし資源の節約に努める。

3. 中期計画（3か年）

1. 法人の組織基盤を強化し本部体制を確立する。
2. 認知症になっても住み慣れた地域で暮らせる支援に努め、関係機関との連携を構築する。
3. 法人の研修体系に沿った新人・現任研修や中途採用者また、派遣職員の研修の充実を図る。
4. まどかⅡ番館の安定した経営と既存事業の稼働率アップを図る。
5. 職員雇用について既存の取り組みに拘らず、新たな雇用の
6. 方法を考える。

4. 令和2年度の重点目標

「財務の安定」、「高品質のサービスを提供する」、「職員の定着、雇用促進、人材育成」を重点課題として取り組む。

1. 財務の安定

1. 各事業の目標を定め安定した収入を確保し、無駄をなくし資源の節約に努める。

2. そせい苑デイサービス、まどかⅡ番館デイサービスの稼働率向上を重点課題とする。
 3. 広報紙やホームページを活用し、施設の情報を開示するとともに広報活動の充実を図る。
 4. 業務委託契約の見直しを継続し、適正な契約を結ぶとともにリスク管理に努める。
 5. 施設の実態に合わせた効率的な人事配置を行う。
2. 高品質のサービスを提供する
 1. アンケートの実施により利用者、家族の要望や満足度を把握しサービスに関する説明や情報提供を丁寧に行う。
 2. 研修による人材育成や技術、資質の向上を図る。
 3. サービス評価の実施や福祉サービス第三者評価を受審し、その評価をサービス向上に生かす。
 4. 第三者委員会を開催し苦情や要望を真摯に受け止め改善する。
 5. 地域住民との交流や地域の学生、ボランティアを受け入れ、地域福祉の拠点として法人の公益性を高め地域社会に貢献する。
3. 職員の定着、人材育成、雇用促進
 1. 各部門の目標を明確にして行動目標を設定する。
 2. キャリアパス要件に沿った研修や技術を習得し、意欲ある職員を役職者に登用する。
 - 3.
 4. ハローワークやホームページ、学校説明会等を有機的に活用する。
 5. 京都は事業所の派遣職員の割合が37パーセントになっており、人件比率が上昇している。派遣職員を減らし、正規職員の雇用に努める。各事業所とも派遣職員を10%減らす事を目標とする。
 6. 各施設で職員会議を開催し職員間のコミュニケーションツールとして活用する。
4. リスクマネジメント
 1. 介護保険法や老人福祉法、高齢者虐待防止法について研修などで繰り返し学び、ヒューマンエラーや不正な行為を根絶する。
 2. 感染について正しい知識を学び、感染予防と対策を迅速に行う。
 3. 大規模災害に備えた訓練と準備、行政や地域との災害時の協力体制を構築する。
 4. 労働安全衛生法に基づき、労働環境を整え、職員の健康教育に努める。
 5. 利用者が快適に過ごせるよう行き届いた清掃管理に努める。
 6. サイバー犯罪に対応できるマニュアル及びセキュリティを強化する。

【 概要 】

そせい苑特養は利用者の平均要介護が 3.8 で重度の利用者が増え、看取り介護対象者が 8 名となっている。「施設で最期を迎えたい」という利用者や家族の意向を尊重し、人生の最期を、その人らしく迎えらるよう支援すると同時に家族に対しても報告・相談・状態の説明を行い看取りに対する不安を解消するようなサポートを行う。

また、利用者が、安心・安全かつ快適に生活できるように、それぞれの専門職が知識と技術の習得を図るとともに、接遇マナーの徹底や権利擁護、虐待や身体拘束についての勉強会を開催し、法令を遵守した施設運営に努める。

職員雇用については、派遣職員率が 45% となっているため、直接雇用への切り替えを行い働きやすい職場環境や職員育成方法の改善を進め、人材の定着に努め質の高いサービスの提供、経営の安定化を目指す。

デイサービスセンターについては平成 31 年 1 月から木曜日・日曜日を休業日とし週 5 日の営業としたが、新規利用者を獲得できず稼働率は 61.6% と低下した。令和 2 年 1 月より定員も 5 名減らし 25 名とした事で、利用者一人一人のリハビリに力を入れ、楽しめるレクリエーションを定着させ、デイサービスの強みとして継続していきたい。また、定期的に居宅介護支援事業所へ訪問活動を行い、新規利用者の獲得に努め、稼働率の向上・健全な運営を目指す。職員の人件費率については 72.8% であるため適正な人員配置を行い 63% に下げる。

在宅部門も含め、来年度はこれまで以上に介護と医療の連携強化や、地域や施設に住まわれている認知症の方へのケア・支援の充実を図るとともに、権利を擁護し高齢者が住み慣れた地域で安心した在宅生活が続けられるサービスを目指す。また、福祉サービスや人権に関する事等の相談・苦情についても、誠意を持って対応し迅速な対応、解決に努める。

< 特別養護老人ホーム そせい苑 >

【 目標・取り組み内容 】

1. 個別性を尊重した介護の実践

- ① 3 ヶ月に 1 回のサービス担当者会議やサービス向上アンケートを年 2 回行い、ご利用者・ご家族の要望やご意見を把握し、サービス内容に取り込む。また、サービスに関する情報提供をすることで安心して施設を利用できるように努める。
- ② 永山会の看取り指針をもとに多職種協働の元、看取り介護を実践し、家族が最後まで利用者に寄り添えるよう個室を準備する等、利用者・家族共に「ここで最期を迎えたい」「ここで最期を迎えられて良かった」と思っていただけのような支援する。

2. 利用者・家族への信頼関係を構築する

- ① 利用者・家族等からの指摘・苦情を真摯に受け止め、申し送りや月 1 回のフロア会

議で職員間周知を行い業務改善に努めサービスの質を向上する。

- ② 月1回の広報誌やブログを通じて、施設の生活や活動を掲載し、施設内の様子や近況を知らせる。

3. 職員の確保・定着・育成

- ① 定期的に職員面談を行い、個々の目標を明確にする事で、職員の意識向上や育成につなげる。
- ② 人材育成については、キャリアパスに応じた外部研修等への参加、介護マニュアルの見直しを行い、新人職員や派遣職員の介護力の向上を図り実践に活かす。
- ③ 高品質のサービスを提供する前提として、改めて接遇マナーの徹底や権利擁護・虐待・身体拘束について勉強会を開催し、介護現場の質を上げる。
- ④ 業務分担表を基に業務の標準化（見える化）を行い、業務の無駄や職員の時間外労働を削減する。

<そせい苑老人デイサービスセンター>

【 目標・取り組み内容 】

1. 稼働率向上に努める。

- ① 介護予防型体感ゲームや日々の様子を記した訪問活動用のチラシを作成し、包括支援センター及び居宅介護支援事業所への訪問活動を週1～2回行い新規利用者の獲得に繋げる。
- ② デイサービスでの様子や心身機能の維持向上の状態など、通所介護計画書やモニタリングを充実させ、各居宅介護支援事業所から信頼できる事業所としての位置づけを目指す。

2. 個別性に合ったサービスの提供に努める。

- ① サービス担当者会議や居宅訪問（理学療法士）で知り得た情報や生活状況・ニーズを具体的に通所介護計画書に落とし込み、「自宅での」自立した在宅生活の継続を支援するように努める。
- ② 介護予防に重点を置いた機能訓練器具（楽々ふみふみ）や介護予防型体感ゲーム（ほっとプラス）を生活リハビリのプログラムに取り入れ、個々に合ったプラン・目標を設定し上下肢筋力の低下予防や認知症予防を行っていく。
- ③ カラオケや体操、体感ゲーム、作品作りなどの選択できるレクリエーションのプログラムの充実を図りご利用者・ご家族のモチベーション向上を図りサービスの満足度を高めていく。

3. ご利用者の健康管理等について

- ① ご利用者の変化・気になる事があった際には日常的にショートカンファレンスを開催し、その内容を改めて職員全員が参加するデイ会議（月1回実施）で周知・確認ができるようにする。
- ② 各かかりつけ医、訪問看護等との連絡体制を整備し、情報交換を密に行う。

- ③ 手洗い、うがい、掃除、消毒等を徹底し感染症を予防する。

<そせい苑ケアプランセンター>

【 目標・取り組み内容 】

1. 健全な財政運営について

- ① 5名体制から4名体制にすることで、単月での黒字を維持する。要介護換算 給付管理数 133件以上を目指し、常時充足率95%以上にする。
- ② 今年度中に算定要件である4名体制のうち1名主任介護支援専門員を整え、特定事業所加算(Ⅱ)を算定し、約56万円/月の増収を目指す。その他の算定要件である週1回以上の情報共有会議の開催や地域包括支援センター及び他法人居宅との連携なども実施していく。また、重介護者を担当ケース全体で40%以上獲得し、更なる収益につなげる。

2. 地域との関わりについて

- ① 地域にある行政、保健、福祉、医療機関との関係強化を図り、地域福祉の向上に寄与する。特に今年度は「医療」との連携を強化し、医療機関へ積極的に訪問するなど主治医と「顔の見える関係性」作りに努める。

3. 人材育成・職場環境について

- ① 課題整理統括表を活用していくため、年に2回以上の勉強会に参加。また、個人の担当ケースのうち、最低でも10ケース以上は課題整理総括表を用い、アセスメント能力や分析能力の向上を図ることで、より個別性の高いケアプラン作成を行う。
- ② 報告・連絡・相談の体制作りや災害時などを含めた担当者不在時のフォロー体制作りを確立する。ワーク・ライフ・バランスの確保のための計画的な有休消化や週1回以上の情報共有会議を開催し、よりタイムリーな情報共有に努めチームとして働く快適な職場環境作りをする。

<京都市下鳥羽地域包括支援センター>

【長期目標 (5ヵ年)】

- ① 2025年を目前に控え、高齢者一人ひとりが、支援や介護が必要になっても、住みなれた地域で最期まで自分らしい生活が送れるように努める。
- ② 地域住民や多職種の関係諸団体等が顔の見える関係を作る。
- ③ 地域ケア会議を活用し、地域住民が主体となって地域の課題に取り組み、改善に繋ぐことができる仕組みづくりを目指す。

【中期計画 (3ヵ年)】

- ① 認知症サポーター養成講座を圏域内のメイト(講師資格者)の協力も得ながら開催し、認知症に関する普及・啓発を行い、現在開催されている認知症カフェ(オレン

ジカフェ、SAKURA カフェ) の普及・定着を図る。

- ② 民生老福合同会議などの地域の会議に、定期的に参加できるような関係性を築く。
- ③ 異世代間交流と、介護予防・認知症の普及啓発を目的とした地域イベントを年 1 回定期的に開催する。
- ④ 地域ケア個別会議の開催を圏域内の居宅介護支援事業所に定着させ、各学区で 10 回の開催を目指す。
- ⑤ 多職種が参加した事例検討会を年 1 回以上開催し、自立支援や重度化防止に効果の高いケアマネジメントのノウハウを蓄積する。
- ⑥ 高齢者自身が担い手となって活躍できる、地域の実情に合った支え合いや居場所作りの取り組みを支援する。

【 目標・取り組み内容 】

- ① 圏域内の 3 小学校のうちの最低 2 箇所で、小学生向けの認知症サポーター養成講座の開催にむけてアプローチをする。
- ② 地域住民や役員、各種団体・機関と協力し、個別ケースの地域ケア会議を各学区：最低 1 ケースは行い、各学区の課題・ディマン드의把握を行い、具体的な計画を地域とともに立案し実施・評価する。
- ③ 圏域内の居宅介護支援事業所と協働して、年 4 回事例検討会を開催する。
地域ケア個別会議へ、圏域内の居宅介護支援事業所から各 1 ケースは事例を提出してもらう。(圏域内居宅：11 事業所)
- ④ 三職種・プランナーとともに圏域の後方支援・困難事例についての共有・事例検討の定期的な開催を継続し、チーム力と各個人のスキルを強化する。
- ⑤ 公園体操ボランティアリーダーの後方支援を行いながら地域の介護予防の普及啓発活動を行う。
- ⑥ 南浜学区ネットワーク会議（みなネット）においてグループ活動を継続する。
- ⑦ 包括の機関紙を地域の情報等を提供するツールとして、年に 1～2 回発行する
- ⑧ 警察や消費生活安全センターからの情報を活用し、高齢者の権利を守るための、勉強会を年に 1 回や広報を随時行う。

<介護老人福祉施設まどか>

【概要】

開設 8 年目を迎え、まどか特養では開設当時に入所された入居者が半数以上入れ替わり、現在の平均要介護度が 3.64 となっている。平均要介護度が下がると収入が減少する為、加算算定の見直しを行い、収入面の安定に努める。また、施設備品の経年劣化も懸念される為、備品の整備及び修繕を実施する。

昨年 10 月に機能訓練指導員を雇用した。今後は入居者の身体機能の維持や向上に介護職員や看護職員と共に力を入れていきたい。

家族とのコミュニケーションを十分に取り、接遇面で信頼を得るように利用者の日常や体調変化などの報告を密にする。

介護職員の全体数に対して派遣の割合が33%と高くなっている為、正規職員雇用を目標に、様々な求人媒体を活用し派遣割合を20%まで下げるように努める。

まどかショートステイでは相談員の退職に伴い、昨年11月から新しい相談員が入職した。ショートステイの窓口が変わった事により関係性が薄れないように他事業所への訪問活動など積極的にコミュニケーションを取る中で出来る限りの要望に応え、稼働率向上に繋げる。

また、昨年度から引き続き、ハッピータイムと称し、昼食を利用者の目の前で調理し食べる企画を毎月実施しているが利用者から好評である為、今年度も継続していく。

利用者や他事業所からの要望が多い、機能訓練に対しては看護師による昼食前の体操や口腔機能向上体操（パタカラ体操）や下肢機能訓練を引き続き実施していく。

【まどか特養・まどかショートステイ 共通の取組内容】

1. 施設の清潔を保持し、備品の整備に努める。
 - ① 施設の掃除区画を見直し、掃除実施日や担当を明確にし管理する。
 - ② 施設備品を点検し、必要な修繕を行い入居者の安全に努める。
2. 職員の確保に努める
 - ① 正規職員の獲得に向けて、新しい求人サイトの活用やホームページの見直しや改善に努める。
 - ② 職員が定着するように毎月1回のまどか職員会議を実施する事で職員同士のコミュニケーションを活性化させる。
3. 清潔感あふれる施設を目指す。
 - ① 施設の掃除区域を見直し、掃除実施日や担当を明確にして管理する。

【まどか特養 目標・取組内容】

1. 利用者のサービス向上に努める
 - ① 利用者や家族の意向を把握し、アセスメント、24時間シート、モニタリングを適切に実施し、ケアプランに基づいたケアを充実させ、誰が見ても分かりやすい記録を目指す。
 - ② 利用者1人ひとりの病気や体重変化などの把握を正確に行い、早期発見・早期治療に努める。
 - ③ 家族様との報連相がスムーズに図れるように、面会に来られる家族様に関してはこちらから積極的なコミュニケーションをすると共に面会に来られない家族様に関しては入居者の状態を月1回電話で報告する。
2. 職員の介護技術の向上に努める
 - ① キャリアパスに沿って施設内研修に参加し、外部研修では職員全員が1つ以上の研修に参加し、入居者の生活の質を向上させる。また、認知症実践者研修や

介護実習担当養成研修に参加する事で実習を受け入れ易い環境を整備する。

3. 地域交流に努める

- ① 毎年行われる地域の運動会、祭りなどに積極的に参加すると共に新たな行事への参画する。
- ② まどかサロンは定着したが男性の参加が無い為、新たなメニューを導入し、男性利用者に積極的なアプローチをする事で新たな地域福祉の拠点として活動する。

【まどかショートステイ 目標・取組内容】

1. 稼働率向上に努める

- ① 新規利用者の受け入れを積極的に行い、定期的な利用に繋げていく。
- ② 施設紹介用チラシを作成し、ショートステイの行事や取り組みなどを発信し、他事業所への訪問活動や広報などを計画的に実施する事で新規利用者を獲得していく。

2. 利用者のサービス向上に努める

- ① 利用者がどのようなニーズを持っているかを把握し、安全面での配慮、環境面でも工夫し、過ごしやすいように努め、「また来たい。」と思えるサービスを提供する。
- ② 心地よい挨拶や言葉使いを心がけ、気持ち良く利用して頂けるように努める。
- ③ 引き続きハッピータイム（昼食作り）は月1回実施し、口腔体操や下肢体操等を毎日実施し利用者の楽しめる機会を増やしていく。

3. ご家族との連携に努める

- ① ご利用者のご家族の関係性を理解した上で、報告・連絡・相談を円滑に行う事で良い信頼関係を形成する。
- ② ご利用者やご家族から得た最新情報を積極的に収集し、すぐに職員間で共有する。

《まどかⅡ番館》

【 概要 】

開苑2年目が過ぎ、特別養護老人ホームとグループホームは安定した稼働率を維持することが出来ているが、デイサービスの稼働率が平均27%という結果となった。令和2年度はデイサービスの運営を見直し魅力ある取り組みやリハビリを実施する。また、利用者拡大にむけて役職者でチームを作り、居宅事業所への訪問活動を実施する。

入居者の生活時間が緩やかに流れていることがまどかⅡ番館の特徴であり、楽しく過ごすことが出来るように施設内の空間を入居者と伴に職員が自由に行き来している。また、家族の面会も多く、運営に対して積極的な参加も見られる。このような強みを生かして、今後も入居者の暮らしの幅を拡げ、自律した生活を支援していく。

第三者評価や外部評価を受診し客観的評価を受け、今後のサービスの資質向上に役立てる。開設時期から就業している職員が現在も多くいる反面、全職員38人の内、派遣職員が

16人（42％）となっており、正規雇用率を高めていくことが求められる。

来年度は、職員勉強会の開催や全体会議を通して、一層の連携強化とスキルアップを図り、ご利用者やご家族の満足度の向上と、事業運営の安定化に努める。

<まどかⅡ番館特別養護老人ホーム>

1. ご入居者に対するサービスの向上を図る。

- ① 挨拶、身だしなみ、言葉使いなど、接遇・マナーについて意識を行い、ぬくもりのある介護を行う。
- ② 介護技術の見直しを行い、ご入居者、職員ともに安全にスムーズに援助が出来るようになる。
- ③ 記録からの情報収集を行い、ケアプランに基づいた適切な援助、記録が出来るようになる。
- ④ ご入居者が快適に過ごせるよう、ご入居者の整容と共に、共用スペースや居室等の清掃を徹底し、チェック表を用いて実施状況を可視化する。
- ⑤ 日々、ご入居者と楽しく過ごせるよう時間が持てるように、レクリエーションを企画する。

2. 稼働率の向上を図り、事業の安定化に努める。

- ① 医療機関との連携を図り、ご入居者の状態把握を行い早期退院に努める。
- ② 随時面接に行き、待機者を増やす。

3. 地域への働きかけを行い、社会資源の役割を担う。

- ① 2ヶ月に1回の運営推進会議を行う。
- ② 認知症サポーター研修や介護者教室、栄養教室などを開催し、地域の方が施設に來られる機会を作る。

<まどかⅡ番館デイサービス>

1. 新規ご利用者の開拓、稼働率の向上を図る

- ① 現在のご利用者の居住地を中心に、事業所周りをⅡ番館役職者レベルで毎月行う。
- ② お便りやブログなど外部へ向けての媒体を活用して、まどかⅡ番館デイサービスの見える化を図る。
- ③ モーニングサービスの試食会を地域住民向けに開催する。

2. ご利用者に対するサービスの向上を図る

- ① デイサービス全般の業務の見直しを行い、職員一人一人が適切で効率的な動きをし、ご利用者への柔軟な対応が出来るようにする。
- ② ご利用者ごとにデイサービスでの過ごし方を確認し、満足の行く時間を過ごして頂けるようにする。
- ③ モーニングサービスの継続、クラブ活動やレクリエーション内容を充実させる。
- ④ 年2回、ご利用者へのサービス向上アンケートを実施する。

3. ケアプランに沿ったリハビリを実施し、ご利用者の介護予防に努める
 - ① 自宅訪問やサービス担当者会議に専門職として参加し、情報共有を行い、デイサービスでのリハビリを充実させる。
 - ② 毎月のデイサービス会議でご利用者の情報共有を行う。

<まどかⅡ番館グループホーム>

1. ご入居者一人一人に対するサポート内容を見直し、満足度を高める
 - ① センター方式シートを活用し、ご本人を取り巻く情報を整理し、日頃のサービスやケアプラン作成時に活用する。
 - ② 個別性の高いケアプランを作成し、ご本人、ご家族へも丁寧に説明を行う。また、プランの変更ごとに職員への共有も行き、実践とその内容の記録を強化する。
 - ③ 京都市介護相談員派遣事業を活用し、日常的にご入居者やご家族の声をサービス内容に反映できるようにする。
 - ④
2. 職員の資質、技術の向上を図る
 - ① 毎月、グループホーム会議で認知症に関する勉強会を実施し、レポート提出で理解度の確認を行う。
 - ② 外部研修（認知症、リスクマネジメント、レクリエーション、接遇など）への参加率を上げ、伝達研修の機会を設ける。
 - ③ 外部評価を受審し、評価結果をサービスの向上につなげる。また、ご家族や地域住民などへ向けて公表を行う。
3. ご家族や医療機関、地域資源との連携を強化する
 - ① ご家族に運営推進会議（2ヶ月毎）へのご案内を行い、ご家族、ご入居者の参加率を高める。
 - ② 地域ケア会議に参加し、地域課題の把握と情報共有、グループホーム職員として取り組みに協力する。
 - ③ ご入居者の状態に応じて、定期受診に職員を同行させ、日頃の様子を共有、掛かり付け医師からの所見をケアプランに反映させる。
 - ④ 入院先の看護師、相談員との情報共有を積極的に行い、グループホームでの生活の継続の判断や早期退院に向けて、定期的に面会に行く。
4. 入退所、調整をスムーズに行い、事業の安定化に努める
 - ① 入所申し込み者に対しての現況を3ヶ月毎に定期的に行い、スムーズな入所に備える。
 - ② ご家族の特養への申し込みなどのニーズを把握し、特養相談員との調整を行う。

<<特別養護老人ホームしがせせい苑>>

【概要】

令和3年度は、利用者の希望や要望に応え、質の高いサービスを提供するために接遇の向上を重点課題として取り組む。利用者及び家族等からの苦情については、真摯に受け止め、速やかに解決するように最大限の努力をする。職員一人ひとりが介護技術の向上を目指し標準化されたサービスが提供できるように努める。大きな社会問題となっている高齢者虐待についても虐待・拘束防止委員会で検討会や研修会を定期的に開催し、介護の質を高めていく。また、利用者・家族の苦情や要望を施設運営に生かすことができるように、第三者委員会を開催し開かれた施設を目指す。

人材確保・育成・定着についての取組みも急務であり、様々な求人媒体を利用し職員を確保する。またキャリアパスに沿った研修会への参加や、職員会議や定期的な面談を通して職員の希望が実現するような職場環境を構築していく。

数年前から実施している地域活動も定着し、サロンや行事を通して地域との関わりの幅が広がりとつあり、地域の期待も大きい。今後も、地域福祉の拠点としての施設の公益性を高め地域社会に貢献していく。

近江商人の「三方よし」の精神に学び、利用者、地域、職員が安心して暮らせる施設づくりに努める。

【 目標・取り組み内容 】

1. 利用者一人ひとりの生活課題や意向に沿って、ケアプランや24時間シートを作成し、それぞれの専門職がチームとなり、利用者が安心・安全かつ快適に生活できるよう支援していく。
 - ① 介護技術を身につけ、標準的な介護を職員全員が行えるよう、介護マニュアルに沿った職員の育成や人材確保を行う。また、利用者一人ひとりの24時間シートを活用し、個別ケアの提供と自立支援を行う。
 - ② キャリアパスに沿って外部研修に参加し、専門職としての技術や知識を身につける。また、職場内でも学んだことを活かせるよう伝達できる場を設ける。
 - ③ 医療との連携、多職種との連携、関係機関との連携を密に行い、口腔機能の向上や生活リハビリでの機能維持、看取りの支援を行う。
2. 丁寧な接遇と信頼関係の構築に努め、しがせせい苑で生活できて良かったと思っただけの支援をしていく。
 - ① 利用者や家族からの苦情や意見を真摯に受けとめ、業務改善や原因の追及を図り、サービスの質の向上を図る。事故や苦情に対しては、分析した内容や改善策を本人や家族に返答する。
 - ② サービス向上アンケートを実施し、提供したサービス内容を振り返り、業務の改善や接遇面の改善に繋げる。
 - ③ 面会やサービス担当者会議で、利用者の様子を伝え、利用者や家族の思いを聞き取り、職員間で共有する。利用者の意向を確認のもと、活動への参加や外出の機会を設けて行く。

【在宅部門共通目標】

重度の認知症の方やその家族が安心して暮らせるよう行政や医療機関などと連携する。

- ① 中重度の要介護者や認知症高齢者が住み慣れた地域で自分らしく暮らせるように、また家族の介護負担軽減となるよう支援する。
- ② 行政や医療機関との関係を強化し事故防止、感染予防に努める。
- ③ 地域連携の拠点として医療や介護、地域住民活動など連携し、家族との情報交換や連携を図り地域包括ケアシステムを推進する。その一環として地域サロンを毎月開催していく。

<ショートステイ しがそせい苑>

【 目標・取り組み内容 】

1. 在宅で生活されている方が住み慣れた地域でできる限り長く生活できるよう支援する。
 - ① ケアマネージャー、主治医等、利用者を取りまくサービス事業者と積極的に情報交換し、より良いサービスの提供に努め在宅支援機能の強化を図る。
 - ② 稼働率や現場目標を定め、安定した稼働率をやサービスを確保できるようショートステイの空き情報や施設での行事、ショートステイでのイベントをケアマネージャーや家族にPRし新規利用者獲得を目指す。
2. ケアプランに沿った総合的な支援で利用者の機能向上を努める。
 - ① 職員は情報共有に努め、アセスメント機能を高め個別性の高いサービスを提供する。
 - ② 研修会、勉強会等に積極的に参加し、職員一人ひとりが技術を高める。

<デイサービス しがそせい苑>

【 目標・取り組み内容 】

1. 利用者一人ひとりが望む生活を実現するために利用者や家族の話を聞き個別性の高い通所介護計画を作成し、在宅で生活されている方が住み慣れた地域でできる限り長く生活できるよう支援する。
 - ① ケアマネージャー、主治医等、利用者を取りまくサービス事業者と積極的に情報交換し、より良いサービスの提供に努め在宅支援機能の強化を図る。
2. ケアプランに沿った総合的な支援で利用者の機能向上を努める。
 - ① 施設内通貨『エール』をツールとして使用し利用者の自立支援の援助ができるようプログラムの充実を図る。
 - ② 職員は情報共有に努め、アセスメント機能を高め個別性の高いサービスを提供する。
 - ③ 研修会、勉強会等に積極的に参加し、職員一人ひとりが技術を高める。

3. 介護が必要な状態になっても住み慣れた地域で暮らし続けることができるように、その人の心身状態や必要性にあわせて、さまざまなサービスを提供する。
 - ① 利用者の在宅生活を支援するために、利用者の生活状況を把握した上で介護予防、機能向上を目指し、心身機能訓練から生活行為向上訓練まで総合的に機能訓練を行い利用者の I A D L の維持、向上を図る。

<居宅介護支援事業所 しがせせい苑>

【 目標・取り組み内容 】

1. 在宅支援機能強化
 - ① 要支援者、要介護者が住み慣れた地域で家族や友人との繋がりを持ち続けて生活できるよう支援する。
 - ② 認知症状で徘徊をされる要介護者やその家族が安心して暮らせる地域の環境作りを行政と連携して行う。
2. 地域包括ケアシステムの推進
 - ① 利用者、家族、医療機関、地域のサービス事業所、民生委員、地域住民との情報交換を密にし、利用者を取りまく社会資源をサービスに位置づけ、地域包括ケアシステムの構築に努める。
施設での取り組みである地域サロン開催や、中学校区の、つどい参加を積極的にを行い、在宅ケアマネージャーの顔を覚えて頂ける様にする。
3. 人材育成
 - ① 様々な制度に対応できるよう内外の研修に参加し、より良いケアプランを作成する為に自己研鑽に努める。

<ケアハウス しがせせい苑>

【 目標・取り組み内容 】

1. 現在入居されている入居者様が、できるだけ長く健康でケアハウスで生活できるよう、介護予防の推進、入居者様の機能向上に努める。
 - ① リハビリ体操やクラブ活動、入居者様の特技を活かせる余暇活動を通じ、介護予防を推進し、入居者様の機能向上に努める。
 - ② 転倒防止のため毎日のラジオ体操・下肢筋力維持体操への参加を促す。年 4 回の体力測定を継続して行き、入居者様の健康志向を高める。
 - ③ 加齢に伴う疾病や ADL の低下、また認知症の症状に適切な対応ができるよう研修に参加し、職員の技術や知識の向上を図る。
 - ④ 空室を速やかに埋め 100%の稼働率を維持する。入居者確保のために守山市・野洲市・栗東市内の居宅介護支援事業所への PR 活動を行う。また病院からの相談が増

えていることから、地域連携室との連絡を密にとっていく。

2. 地域住民との関係作りを構築する。
 - ① 入居者様が積極的に地域の催しに参加し、交流を深めることで顔なじみの関係づくりを行う。
3. 地域社会と連携し災害時の対策を講じ、非常事態に対応できるシステムを確立し、安心・安全に暮らせるよう支援する。
 - ① 行政や医療機関との関係を強化し、感染予防に努める。また地元大曲町との災害時連携、守山市の福祉避難所、また防犯のための近隣パトロールなど、地域社会と連携し有災時の協力体制を確立する。
 - ② 様々な法令を学び、入居者の安全・安心な暮らし作りに努める。
4. 高齢化がすすむ現状に沿って、ケアハウスでの生活が困難になった入居者様の次の居場所をスムーズに確保できるよう、入居者様・家族様・ケアマネージャー・主治医等、入居者様をとりまくサービス事業者との連携を行う。
 - ① 入居者様との信頼関係を作り、健康面、生活面の相談しやすい雰囲気を作る。家族様面会時には、入居者様の近況の生活状況を知らせることにより、信頼関係を構築していく。